

一般質問から

藻琴流域環境対策 市内高等学校のあり方は

民主市民ネット 佐藤 伸弥



問)藻琴川上流部千草地域で、農地防災事業の検討に入ったと伝えられているが把握をしているか。藻琴川本流の環境保全上、その有効性について市長の見解を。

答) 網走開発建設部では、「地域整備方向検討調査」を平成18年から3ヵ年で実施することを現在検討している。総合農地防災事業は、藻琴湖及び藻琴川流域のみならず、丸万川、越歳川、卯原内川等の流域についても、今後包括した地区採択ができないか国に要請していきたい。

問)併せて本流環境保全に向け、道州制北海道モデル事業の実現を図っていくことが重要、市長の見解を。

答)道は、「健全な水環境の保全・復元に向けた流域からの取り組み」をテーマに道州制北海道モデル事業の検討をしている。流域市町村と要請を続けていきたい。

問)市教委の懇話会最終報告では、2校体制の場合、公立高校と網走高校の再編一体化が望ましいとされているが、道との協議をどのように進め、いつを目途に最終報告の実現をしようとしているのか、教育長の見解を。

答)再編一体化について、いつまでということを現段階では言えないが、市教委会議で今後の方向を検討し、道教委と網走高校との早い時期での協議が必要と考えている。

三位一体改革と市財政 の今後の見通しは

日本共産党議員団 松浦 敏司



問)小泉内閣の示した「三位一体改革の全体像」の実態は、自治体本来の仕事である住民福祉の増進を困難にするもので認められない。市長は「三位一体改革の全体像」に対して、どのような見解を持っているのか。

答)全体像は、国と地方が対等の立場で7回に及ぶ協議を経てまとめたもので、地方分権の実現、地方自治の確立の観点から画期的なことである。しかし、自治体の安定的な財政運営に必要な地方交付税、地方税などの一般財源の総額を確保するとされたものの、結果的には、「三位一体の本来の目的」を見失い、単に数字のやりとりで終わった感がする。今後、国の将来に向けて、地方分権の議論をする必要があると思う。

問)硬直化している市財政のもと地方交付税が、これ以上の削減があれば影響は大きい、新年度の地方交付税の見通しと中期財政見通しへの影響はどうか。

答)地方交付税の見直しについては、財務省と地方の間にその認識に大きな相違がある。交付税の大幅カットは回避されたが、財務省は依然として大幅削減の姿勢を崩しておらず油断できない。中期財政見通しについては、ベースにしている16年度の前提が崩れるような削減があれば、今後の財政運営は極めて困難になる。

鹿の食害及び防犯の 街づくりについて

公明クラブ 高橋 政行



問)知床が世界自然遺産に認定された場合、多くの観光客の来訪が予想される。その際、シカの食害による枯れ木の風景ではなく、美しい網走、知床を見てもらうため、シカの安定的生息水準の確保について対策を考えるべきでは。

答)食害対策としてH13年度から3ヵ年で、農協が国・道の補助事業を活用し、近隣町村と連携を図り、ほぼ市内全域の農地を対象として、シカ侵入防止柵設置事業への支援や有害鳥獣駆除を行っている。その結果、被害額はH10年の約9,600万円をピークとして減少傾向にはあるが、H15年でも約5,800万円の被害額と推計されている。近年、シカ肉の利活用を進めている地域もあるが、高齢化による狩猟人口の減少からシカ肉の確保が難しくなってきた。地域にあった生息水準を維持し、今後も関係団体等と連携してシカの食害防止に努めていきたい。

問)人工衛星により位置の確認をすることのできるGPSシステムを児童に貸与しては。

答)GPS機能付きの携帯電話やランドセル等はあるが、全国的に見て学校として利用しているところはなく、価格や維持費の面において課題が多いので、当市における導入は難しい状況にある。

高齢者対策・子育て支援・ 読書推進について

公明クラブ 佐々木 玲子



問)高齢者の介護予防として、筋力向上トレーニングの普及と環境づくりに保健センターを核に整備すべきでは。

答)家庭で簡単にできる高齢者筋力アップ事業について、現在、潮見地区をモデルとして実施している。今後、各コミセン単位での拡大を検討していきたい。

問)最近、高齢者の公住での住み替え相談が多いのだが、障害者のみならず介護認定者も優先受付が必要なのは。

答)住み替え要望が増加しているため、新しく介護認定等による住み替えの受付事務について進めているところ。

問)子育て支援センターは、市内に1ヶ所しかなく、利用者が不便を感じている。児童館を活用しては。

答)より多くの子育て支援のため、つくし児童センターと、潮見児童センターで「子育てクラブ」を開設している。今後さらに児童館の幅広い活用を検討していきたい。

問)図書館司書教諭の配置に代わる対策として、本に関心のある父兄に携わってもらう等、対策を考えるべきでは。

答)地域ボランティアの学校図書館での受け入れは、学校教育との連携が図られ、子供の読書推進に結びついていくものと考えられる。どのような仕組みが良いかなど、学校の意見を聞いて今後検討していきたい。